

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野科  
目コード:240003-1

## がん看護学演習Ⅰ Oncology NursingⅠ

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	薬物療法、症状マネジメント				
学習目的・目標	学習目的: がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practiceのために必要な知識を習得する。 学習目標: 1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 2. がん薬物療法中の患者への専門的な看護実践技術を理解できる。 3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1-2	がん薬物療法と症状発生のメカニズム			講義・討議	臺
3	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント			講義・討議	臺
4-5	造血器腫瘍薬物療法(造血器幹細胞移植を含む)と療養過程のマネジメント			講義・討議	臺
6-7	乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント			講義・討議	臺・瀧澤
8-9	がん薬物療法に伴う浮腫の症状とマネジメント			講義・討議	臺
10-11	がん薬物療法に伴う排泄障害の症状とマネジメント			講義・討議	臺
12-13	AYA世代のがん薬物療法に伴う人生への影響と看護支援			講義・討議	臺
14-15	がん薬物療法中の地域連携体制の整備と看護師の専門的役割			講義・討議	臺
教科書					
参考図書等	随時、提示する				
評価方法・基準	グループワークとディスカッションへの態度(50%)およびレポート(50%)				
関連科目	がん看護学演習Ⅱ、薬理学				
教員から学生へのメッセージ	この演習では、がん薬物療法を受ける方々を対象とした専門的な看護支援技術について学びます。薬物療法の基本的な知識を基盤として、身体症状が出現するメカニズムを理解し、これらの問題を解決するため必要な看護支援方法について修得することを目指します。最新の知見を踏まえた講義と受講生同士の討議から、積極的な学習の機会となることを期待しています。				

